

## 仙人通信 110 西岳 (2398m)

八ヶ岳の南端で編笠山と並ぶ西岳は、溶岩円頂丘から成り、火山麓扇状地として綺麗な裾野を引くも、編笠山から小沢沢へと下る縦走路から外れるため、登る人は少ないようだ。

鉢巻道路の富士見高原ゴルフ場先のヒルサイドホテル横の林道からのコースをピストンする事にした。ホテル横の道路を詰めると、赤松林に包まれた足立区自然園で行き止まりとなった。たまたま自然園の管理人が居られ尋ねると、西岳へは園の裏手から登る人がいると言う。自然園の裏手に林道があり、10m程に西岳との道標があった。更に150mほど進むとフェンスで囲まれた上水施設に阻まれ、フェンス沿いに進むと林道に出た。多摩市の『フレンドツリー』と丸太に書かれた横に西岳を示す道標がある。やれやれ！

唐松と白樺の林の登山道を進む。ギボウシ・薊・マmanaコ・ハナイカリ等の初秋の花が咲く山路である。10cm程の笹やシダの自生した白樺のなだらかな登りでは、トリカブトが花を付け始めている。道標から30分程進むとY字状の林道に突きあたる。ここも道標が無い。帰路のために唐松の枯れ枝を目印に置いて、左手に進む。林道から上は唐松からトウヒの林へと変わり、ヒヨドリソウやアキノキリンソウそして、赤紫色の小さな花を並べたミヤマモチヅリが可愛い。林道はU字状に400m程進むと、海拔1700mの丁字路にぶつかる。千枚岩林道と書かれてはいるが、ここでも道標が無い。しばし考え、ここも左側へと進む。約200m程に『信玄の隠れ岩と西岳山頂』が示された道標だ。元気を貰い笹に覆われた30cm幅の路を進む。トウヒからよく手入れされた唐松林である。トウヒと唐松は良く似た葉を付ける仲間だが、トウヒの葉の方が密であり、落ちている松ぼっくりも、唐松が親指大に比較しトウヒは鶏の卵大と異なるのでよく判る。ところで、西岳のトウヒはヤツガタケトウヒと言われ他とは区別されているようだ。

明るい唐松林では黄色いダケフキ・トリカブトそしてハナイカリが咲いている。白樺からダケカンバへと植生も変わり、クコの木に似た棘のある低木のメギが多い。海拔1900m位までは唐松の落葉でふかふかで、娘と歩いたバーজনロードのようだ。道は右側に捲き1910mと書かれた道標でやっと露地に出、目の前に編笠岳が顔を出す。吾亦紅・草蓐・クルマバナ・薄が咲いている。登り始めてから1時間50分である。ここからは路は岩が露呈した尾根筋となる。トウヒの林越に阿弥陀岳が、その手前に立場岳が臨める。植生もトウヒに変わった。花のない路となり、岩と木の根のきついコースだ。白いセリバシオガマの群落に遭遇して嬉しくなる。きつい登りで上に青空が覗くと、山頂が頭を過ぎる。石楠花・桜・躑躅が混じる。足元では、杉の葉を長く伸ばした様なヒゲカズラも大きな穂をもたげている。ゴゼンタチバナ・コケモモの赤い実も映えている。シラタマの木も大豆大の白い花を付ける。よく見るとベニバナイチャクソウ・コバノイチャクソウも花を付けている。やがて林から解放され、開けた山頂に着く、なんと3時間20分であった。

目の前に編笠・権現・赤岳・横岳・硫黄・阿弥陀そして遠くに鳳凰・甲斐駒である。足元ではマツムシソウ・オンダテ・ハハコ・シャジン・アサマフーロ・ソバナ・コゴメグサ・アキノキリンソウそして矮小化したクルマバナ・ホタルブクロが迎えてくれた。鹿の鳴き声が風に乗り上がってくる。そんな山頂で至福の時間をむさぼった。帰路は同じ道をたどる6時間10分・23000歩の山旅となった。(h24.8.31)

信玄の隠れ岩の道標

西岳山頂

山頂から赤岳を望む

